



研究の成果を発表する大正大学地域創生学部1年生

活性化策を提言

地域創生学部1、3年生

大学大正 商品開発、観光、まちづくり
 成果報告会
 10/29 ヒントに カザレー式ティラミスはー

延岡市に1カ月ほど滞在し活性化策を探ってきた大正大学(東京都豊島区)地域創生学部の学生が26日、その成果の報告会を開催した。会場のカルチャープラザハーモニーホールには、活動に協力した行政関係者や一般の人ら約30人が集まり、学生の提案を興味深かった。

同学部は地方の活性化を担う人材の育成を目的に、1・3年次に「地域構想研究所」の「実習」という長期滞在型加齢する地域がその舞台のフィールド学習を実施して、延岡市には同学部創



カザレー式ティラミスの試作品。会場で振る舞われた

設の平成28年度から訪れ3年目の今回は、1期生の3年生6人と3期生の1年生8人の計14人が9月10日に来延。1年生はグループで、1年次に延岡で実習を履修した3年生はその経験をベースに個人で研究を進めてきた。

報告会で1年生が提案したのは、「商品開発」エ

「1ツをつくらせてみたけどうか」といふ考えが生まれ、商品イメージを考案する際に市民への聞き取り調査を実施し、延岡のシンボルは旭化成の煙突」という多くの回答を得て、10〜20代の女性をターゲットに考案、スイーツを選択。旭化成の製菓工場にカザレー博士がイタリア人で、イタリアを代表するスイーツにちなみ「ティラミス」を選んだという。デザインは煙突をモチーフ

「カザレー」をテーマにした3点。商品開発について、リーダーの吉本さんが旭化成の煙突をイメージしたスイーツを発表した。吉本さんは「実習の中で延岡の名前を冠した商品を知ることができなかった」と感じ、延岡市を想起できるようなスイーツをつくってみたいという。商品イメージを考案する際に市民への聞き取り調査を実施し、地域貢献したい」と取り組んだと実習を総括。来場者は「旭化成の煙突のスイーツは素晴らしい」と評価した。

1フ。赤色の部分はイチゴ、白色の部分は豆乳ホイップ、植物性チーズを使用。全ての手が取りやすい商品にしたい」という思いから、食物アレルギーのある人でも食べられるように工夫した。吉本さんは「地域還元できる形あるもの開発、よその者・若者視点から問題点を分析し、改善策を提案し、地域貢献したい」と取り組んだと実習を総括。来場者は「旭化成の煙突のスイーツは素晴らしい」と評価した。

も提示しながらも具体的な発表。山本一丸副市長「しっかりとした研究、新たな気付きも何点あった。今後も研究を続けてもらい、延岡に成果をもたらせたい」と期待の言葉を送った。学生は10月30日に帰す予定。

2018

2018.10.28